

乙女高原が好き！ 1002号

もう泊まれないの!? 管理人さんもいないの!? 32年もの歴史を持つグリーンロッジが「休止」に

え、グリーンロッジが休止?!
『広報やまなし 2010年5月号』に、「乙女高原グリーンロッジ休止のお知らせ」という記事が載りました。「給水装置故障のため施設の利用ができなく、「平成22年度の施設の利用は休止する」とのことです。

このロッジは乙女高原を利用する人たちにとって、とても重要な施設です。宿泊所としてばかりでなく、周辺の様々な情報が得られる情報センターであり、事故等が起きた場合に駆け込める救急センターであり、なにより、施設があり、管理人さんが常駐していることによる安心センターでした。自然の監視センターでもありました。もちろん、私たちファンクラブの活動・案内人活動にとっても、なくてはならない活動拠点でした。

さっそく世話人会で対応を話し合い、市に要望書を提出することにしました(5/24に提出 右がその要望書)。同目的の施設である葦崎市の甘利山グリーンロッジが約7千万円をかけてリニューアルされたという話が新聞に載ったので(山日,5/1)、実際に見せていただきに行きました。

市とファンクラブの話し合い

市の担当者と直接話し合う機会を作っていただけるようお願いし、ロッジを管理している生涯学習課長さんをはじめ、観光課長さん、牧丘支所長さん、牧丘教育事務所リーダーさんから直接お話を聞いたり、対応策について話し合いました(6/3)。ファンクラブからは代表世話人3人が出席しました。

休止する理由は大きく2つで、利用者の減少と施設の老朽化だそうです。

宿泊者数は2007年までは500人強

山 梨 市 長 竹越久高 様
山 梨 市 教 育 長 堀内邦満 様
山梨市生涯学習課長 芦澤 武 様
山 梨 市 観 光 課 長 小 林 孝 様

乙女高原ファンクラブ
代表世話人 古屋利雄

乙女高原グリーンロッジ開館に関する要望書

平素より「乙女高原の自然を守り、次の世代に確実に譲り渡そう」という私たちの活動にご支援ご協力いただきまして、ありがとうございます。

さて、ご存知のように、乙女高原には静かな自然を求めて、県内外からたくさんの方が訪れております。ハイキングや植物観察はもとより、山菜採り、キノコ狩り、スケッチ、写真撮影、バードウォッチング、天体観測、山岳ドライブ・ツーリング、避暑、紅葉狩り、森林浴等々、目的は様々です。最近はサイクリング、植物画、特定の動植物の観察など、目的はさらに多様化しています。これらの方々にとって、乙女高原グリーンロッジは、安心・安全の施設であり、乙女高原周辺の生きた情報を得られるビジターセンターでもあります。また、牧丘町内の3小学校はロッジを使って自然教室等を行っておりますし、ボーイスカウトや育成会、ユネスコ等、ロッジを活用して青少年の自然体験・環境学習を行っている団体もたくさんあります。私たち乙女高原ファンクラブの活動も、ロッジがあるからこそ成り立っております。

ところが、『広報やまなし』5月号に、グリーンロッジの平成22年度の施設利用は休止する旨が書かれておりました。グリーンロッジの休止は、乙女高原を訪れた方へのサービス低下ばかりでなく、乙女湖も整備され、今後、ますます盛んになるであろう山梨市の山岳観光振興を阻害するものであり、山梨市のイメージダウンにもつながりかねません。また、青少年の自然体験・環境学習がなくなるばかりか、乙女高原の自然保護にとってもたいへんなマイナスです。

今年度の開館について、ぜひ再考していただきたく、要望いたします。貴職におかれましては、私たちの要望を前向きに検討していただけるようお願いいたします。

- 1.今年度も、昨年度同様に乙女高原グリーンロッジを利用できるよう再考してください。
- 2.ロッジ利用休止の詳しい理由を教えてください。開館に向けて私たちに協力できることがありましたら、協力したいと思います。

以上。



で推移してきましたが、2008年は356人、2009年になると251人と、右肩さがりに減っています。

一方、ロッジ開館は1978年。すでに32年が経過しており、施設の老朽化が進んでいますし、法律等の改正により、上下水処理の施設が時代に合わなくなっており、直すためには莫大な費用がかかるそうです。

以上の理由により、宿泊施設としての維持は無理と判断し、現在、水も電気も使えない状態になっています。つまり、広報には「平成 22 年度・・・は休止」と、一時的な休止とも受け取れる表現ですが、**実質的には、今後活用の予定はなく、「廃館」といってもいい状況です。**

「せめて、夏の土日だけ管理人を置いてもらえないか?」「テント場を返却するなどして県

への借地料を圧縮してはどうか?」など、意見交換をしましたが、いずれもよい返事はいただけませんでした。

ただ、ファンクラブによる活用については、全面的に協力するとの約束がいただけました。

ロッジ開館に向けて、ご協力をお願いします

以上のような経緯を踏まえた上で、6月の乙女高原ファンクラブ世話人会にて、今後の対応について話し合いました。また、この件に関して、西保の区長会により市に陳情する、6月市議会で質問する議員さんがいるという情報も提供されました。世話人会では、以下のような結論となりました。

1. ロッジの運営が厳しいことは理解できる。また、今年度のロッジ再開については、すでに6月議会も開会されており、補正予算を今から組むことは不可能であることから、難しい。
2. 従って、今年度のロッジ再開は無理と判断し、今年度はそんな条件下でもできる活動を考える。
3. とはいえ、ロッジは教育施設であり、費用対効果という尺度だけでは評価できない施設である。
4. また、利用者数が減少しているのは確かだが、それを盛り返そうと『営業努力』している姿が見えない(たとえば、10人以上の団体でないと貸していないようだが、家族など、もっと少人数にも貸していいのではないかと)。また、十分な告知がされているとは考えられない。
5. 以上の理由により、西保の区長会による陳情や6月市議会での議員の質問の結果等を踏まえながら、今後もロッジ開館に向けて、ねばり強く働きかける。

ロッジが再開できるよう、皆さんにもご協力をお願いしたいと思います。市の行政や議会の皆さんにはもちろん、より多くの方にロッジの大切さを訴えながら、世論を盛り上げていくようなことはできないでしょうか。

遊歩道づくりとシカ柵設置 春の乙女高原でいい汗かきました

天気に恵まれました。天候が穏やかだと、ほっとします。天気がいいだけで、けが人や病人が出にくくなるからです。今日の参加者数は市・県・ファンクラブ・諸団体・一般をあわせて78名でした。第1回の遊歩道づくりを10人でやったことを考えると、時代の流れを感じます。なお、そのうち、乙女高原案内人は20人。やっぱり案内人の存在は大きいなあ

あらためて思いました。

今年は遊歩道づくりとシカ柵設置作業の両方を同日にやっってしまうとの計画です。朝の会終了後、あらかじめお願いしておいた7人には資材を車に載せて、湿地のシカ柵作りに向かってもらい、他の方は例年通りの遊歩道づくりに取り組んでいただきました。

杭は1本1本かけやで叩いてしっかり立たせる、新しいロープを降ろすときには注意して伸ばさないとこんがらがってしまう、杭と杭の間のロープをあまりきつく張らないなど、昨年までの反省が生かされています。また、雪のために延期になった下見と下準備を6日に済ませてありましたので、交換しなければならぬ杭には印が付けてあり、作業がスムーズでした。去年の案内人キャンプで手作りした杭たちも、いよいよ活躍する日が来ました。

遊歩道づくりはあっという間に（11時ころ）終了してしまいました。ロッジの庭に引き上げていただき、昼食時間としました。ところが、湿地のシカ柵班がなかなか帰ってきません。ケイタイで連絡を取り合いましたが、「もう少し時間がかかりそう」とのことです。午前中の作業終了予定は12時ですので、予定の範囲内ではありませんでしたが、すでに遊歩道班の皆さんは食事時間になってしまっていたので、様子を見に行ってみました。

湿地のシカ柵設置班はまだまだ作業中。まわりの間伐材の片付けという余計な仕事が入ったり、「湿地」で、しかも「斜面」なので、設置作業がよりたいへんだったという事情があり、遅れていたようです。結果論でしかありませんが、湿地シカ柵班にもう少し人数を割いたほうがよかったかなと思いました。きりがいいところで作業を終えていただき、ロッジに帰って、急いで昼食を取ってもらうことにしました。

急いで昼食を取ってもらったのには理由があります。というのも、午前中、湿地でシカ柵設置を「体験」していただいた7人に、午後から行う草原内での2つのシカ柵設置作業の「指導」をしていただくという計画になっていたからです。

ということで、湿地シカ柵班の7人には草原のシカ柵設置作業に行ってくださいようにし、数名の方をお願いし、湿地のシカ柵の仕上げ作業をすることにしました。

さて、シカ柵設置作業は、このシカ柵を製造・販売している「大一工業（奈良県）」の竹中さんに指導していただきながら行いました。概略は以



上：遊歩道の杭打ち。中：シカ柵の支柱2.5mおきに地面に打ち込む。下：支柱にプラスチック製の網を固定していく。

下の通りです。

1. 前もって印を付けておいたロープを使ってシカ柵の設置位置を決め、4隅に支柱を立てる。
2. このロープには2.5メートルおきに印が付いているので、その印ごとに支柱を立てる。支柱は専用の道具を使って地面に60センチ打ち込む。道具は2台しかないので、脚立に登って、上から「かけや」で叩くという方法も併用した。
3. トイレットペーパーのように巻かれている網を少しずつ解きほだいて、支柱に結束バンドで止めていく。その時、網の下部20センチは地面に這わせるようにする。
4. 出入り口を作る。
5. 網の上部に張りロープを通し、それぞれの支柱にロープを「とっくり結び（遊歩道作りでも使っている結び方）」で固定する。
6. 網の地面に這わせている部分にも張りロープを通し、ところどころにペグを打ち込み、ロープと網ごと地面に固定する。
7. 三枝さんに用意していただいた竹を、4隅の支柱に斜めに固定し、つかえ棒とする。

子どもたちも作業に参加してくれました。終了時刻は予定の30分前。2時ちょいすぎには全部が終了でした。よかったです。参加者にはアンケートをお願いしました。アンケートのお礼は、新しく作ったポストカードです。終了後、電気も水もないロッジで、茶話会を行いました。

そうそう。湿地の地面の下からタゴガエルの声が、遠くからはツツドリのポポ、ポポ、・・・という声が聞こえていました。乙女にも春がやってきました。

柵の外と内で、植物の成長や花の付き具合に差が見られるのでしょうか。7月上旬現在、柵の中と外とで目立った差は見られません。とはいえ、柵の外ではシシウド、タムラソウなどにシカの食べた跡が見られます。



乙女高原案内人の活動

牧丘第三小学校の自然教室をお手伝い

ロッジが休館であるにもかかわらず、牧丘第三小学校では例年通り、自然教室を実施。乙女高原案内人の竹居小枝子さん、依田 昇さん内藤邦雄さんが子どもたちを案内しました。ご苦労様でした。

子どもは素直です

無事、雨にも降られず自然教室完了できました。小学生17名、校長先生(昼食より)、教頭先生、教師4名の参加でした。

内藤さんの五感体操から始まりです。子どもたち、一生懸命やっていました。

小生が4年生担当で、5年生は竹居さん、6年生は内藤さんで、この順で森コース 山頂 ブナ爺 草原コースを歩きました。

子供は素直です。花の少ない時季・目立った花のない時季でしたが、何でも聞いてきます。シロツメクサ、ハタザオ、ニガイチゴ?ニガナ等大人ではあまり質問されない花ばかりか、目にはいらぬようなスゲ?らしき物まで。木、草花、チョウ、ハチを合わせ40種ぐらいはノートにメモしていたようです。

ブナの大きさや、殻斗、実を拾って大喜びでした。残念ながら富士山は見えませんでした。ロッジの見える稜線まで来たら、大声で雄たけびをあげました。ダケカンバの根元に巣があったニホンミツバチはどうしているのでしょうか、影も形もありませんでした。

みんな本気で歩いたため、お腹が空いたらしく、早く食事、食事と騒いでいました。たのしい昼食でした。

午後、内藤さんを中心に三人で全生徒、先生にシカ対策のネットの所で、高原の現状、シカの影響、ネットとの関わり等を話しました。「直ぐには、結果は出ません。来年、再来年もここに来て、みんなで勉強しましょう」と結論づけました。

ロッジ前で5mの網の中に26名全員で入りブナじいさんの大きさを確認しました。生徒さんから「ありがとうございました、来年もよろしくお願いします」のあいさつがあり、解散しました。「ここに泊まれなくなりつまらない」とも言っていました。

帰り道、笹子から豪雨に見舞われました。高原で降られなくて本当に良かった。(依田 昇さん記)



夏、乙女高原でお会いしましょう

7月25日(日) 乙女高原を歩こう (自然かんさつ会)

乙女高原をゆっくり歩きながら、この時期ならではの乙女高原の自然をかんさつします。

集合 午前10時 グリーンロッジ前。 **終了** 12時。 少雨決行。
参加対象 どなたでも。 **定員** 30人。 **参加費** 無料(行事保険には主催者で加入します)。
参加者全員に『乙女高原フィールドガイド 乙女高原のお花たち』をもらってプレゼント。

8月8日(日) マルハナバチ調べ隊(今年度第2回目)

今年で8年目となるマルハナバチ市民調査の今年度第2回目です。ちなみに3日目は9月12日(日)に同じ日程・内容で行います。

集合 午前10時 グリーンロッジ前。 **終了** 午後2時。 少雨決行。
参加対象 小学校4年生以上(それより小さなお子さんも保護者同伴なら参加可です)
定員 20人。 **参加費** 無料(行事保険には主催者で加入します)。
参加者全員に『乙女高原フィールドガイド マルハナバチ・ウォッチング』をもらってプレゼント。
持ち物 筆記用具, ペンとう, 雨具 (ほかにルーペなどかんさつ用具があれば)

8月22日(日) 乙女高原を歩こう (自然かんさつ会)

乙女高原をゆっくり歩きながら、この時期ならではの乙女高原の自然をかんさつします。

集合 午前10時 グリーンロッジ前。 **終了** 12時。 少雨決行。
参加対象 どなたでも。 **定員** 30人。 **参加費** 無料(行事保険には主催者で加入します)。
参加者全員に『乙女高原フィールドガイド 乙女高原のお花たち』をもらってプレゼント。

午後からの杭づくりにも参加する方はペンとうを忘れずにお持ちください。

8月22日(日) 杭をつくろう(木工作业)

乙女高原の遊歩道で使う杭を、間伐材を活用して手作りします。原則として案内人の活動ですが、ファンクラブ会員や興味のある方の参加も可能です。実際に自分の手で何かを作るのって、楽しいですよ。

集合 午後1時 グリーンロッジ前。 **終了** 午後4時(予定)。 少雨決行。
参加費 無料(行事保険には主催者で加入します)。
持ち物 作業手袋(軍手など), のこぎり, なた, …などの大工道具(無くてもオッケーです)。

乙女高原ファンクラブの事務局だよ

メールのアドレスとサイトのアドレスが変わりました。ご確認ください(このページ一番下を見てください)。サイトでは1週間おきに見頃の花を紹介しています。ぜひご覧ください。

6月27日は今年度第1回のマルハナバチ調べ隊でした。あいにくの雨でしたが、16名もの参加者があり、紙芝居とラインセンサスを行いました。6人のちびっこも参加し、マルハナバチこそ観られませんでした。季節の自然を満喫しました。

7月3~4日、(財)日本自然保護協会主催の「市民調査全国大会」が東京のオリンピック記念青少年センターで行われ、乙女高原ファンクラブを代表して植原が参加し、マルハナバチ調べ隊の活動を紹介してきました。この大会には120もの団体が参加し、それぞれの団体で行っている調査活動を紹介しあい、意見交換しました。



乙女高原ファンクラブ

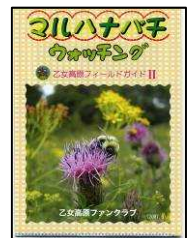
乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判186ページ)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1冊1000円、送料は一冊につき80円。欲しい方は郵便振込で一冊につき1080円分を送金してください。

マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング』

(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。欲しい方は事務局までご連絡ください。



春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー)乙女高原フィールドガイドの第1号。春から秋にかけて咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈の表示や草花を一言で表したコメントが「分かりやすい」と評判です。今年リニューアルしました。欲しい方は事務局までご連絡ください。



乙女高原ファンクラブの普通会員になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会員とサポーター会員の2種類があります。会報(ニュースレター)は年4回発行予定です。この号は全会員に送っていますが、あとの3号は普通会員にしか送りません。乙女高原での活動を多くの方に知ってもらいたいので、できるだけ普通会員での入会をお勧めください。また、現時点でサポーター会員の方も普通会員への移行をお勧めします。会員が増えることで、乙女高原を守るファンクラブの発言力も強くなります。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」と、入会のご意志を事務局まで届けてください。だされば、いつでも、だれでも会員になれます。ファックス、メール、手紙が確実です。
- ・入会金も年会費もありません。
- ・普通会員には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会員には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。
- ・そして・・・、乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。

乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

変わりました。ご注意ください。

郵便振込 (番号)0220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ